

Press Release
報道関係者各位

2025 年 8 月 28 日
株式会社メガネトップ

埋蔵メガネを、防災メガネに。

災害時に備えて考えておきたい「見える」を守るメガネのこと。



9 月 1 日の「防災の日」は、1923 年に発生した「関東大震災」に由来しています。広く国民が災害の認識を深めて備えを強化し、災害の未然防止と被害の軽減に繋げていくことを目的とし制定されました。眼鏡市場（本社：静岡市葵区、代表取締役社長：富澤 昌宏）は、この「防災の日」に合わせ、使わなくなったメガネを「防災メガネ」として生き返らせる取り組みをスタートします。

災害時に「見える」を守るメガネについて

防災メガネに関連して社内アンケートを実施したところ、災害を経験した従業員からは、「見える」を守ってくれたのはメガネだったという声が多く聞かれました。

1. 避難時の「見える」を守る

自宅周辺が冠水した時、コンタクトレンズを装着している余裕がないので、予備のメガネがあり助かりました。（30 代・女性）



2. ライフライン復旧までの「見える」を守る

3.11 の被災者です。コンタクトレンズで生活している場合、水が使えないと着脱が難しくなります。ライフライン復旧までの目安が、電気 6 日・下水道 30 日・ガス 55 日です。避難生活やライフライン復旧までの事を考えると、メガネで生活が出来る準備は行っていて欲しいと思います。（40 代・男性）



報道関係者からのお問い合わせ先

株式会社メガネトップ 経営企画室 広報グループ 担当：掛本
TEL：080-4923-7288 mail：pr@meganetop.co.jp

埋蔵メガネを防災メガネに。全国の眼鏡市場でメガネの一斉点検を実施

ネジが緩んでグラグラしていたり、メガネが歪んで掛け心地が悪かったり、使わなくなったメガネは色んなトラブルを抱えている可能性が高いため、災害時の「見える」を守る防災メガネとなるよう、眼鏡市場で購入したメガネも、別のメガネ店で購入したメガネも、全国の眼鏡市場で一斉点検を実施します。

1. メガネパーツの点検・交換
2. ネジの緩み・劣化のチェック
3. メガネのバランス調整
4. 洗浄・クリーニング

また、点検後のメガネを備蓄するため、防災バッグの隙間に入りやすく見つけやすい防災メガネケースをプレゼントします（2025.09.01～なくなり次第終了）



▼防災眼鏡 | [リンク](#)

▼点検を行うにあたっての注意事項

- ・表面上では見えない劣化があると、調整時の力に耐えられず、折れてしまう場合があります
- ・フレームの状態によっては、点検をお受けできない場合があります
- ・特殊なパーツはお受けできません
- ・ネジや鼻パッドの交換の際、メガネの形状によっては有料になる場合があります

株式会社メガネトップ

所在地 静岡市葵区伝馬町 8 番地の 6

代表者 代表取締役社長 富澤昌宏

設 立 1980 年 5 月

資本金 100 百万円（2025 年 3 月末）

事業内容 メガネ、コンタクトレンズ、補聴器の販売、その他関連商品の販売

店舗数 国内 1,035 店舗、海外 28 店舗（メガネトップグループ合計、2025 年 3 月末）

従業員数 5,201 人（2025 年 3 月末）

コーポレートサイト <https://www.meganetop.co.jp>

眼鏡市場ウェブサイト <https://www.meganeichiba.jp>

お客様からのお問い合わせ先

株式会社メガネトップ お客様相談室 フリーコール：0120-818-828（受付時間 9:00～18:00）

*「眼鏡市場」「ALOOK（アルク）」「レンズスタイル」「レンズダイレクト」は当社のグループ店舗です

報道関係者からのお問い合わせ先

株式会社メガネトップ 経営企画室 広報グループ 担当：掛本

TEL：080-4923-7288 mail：pr@meganetop.co.jp